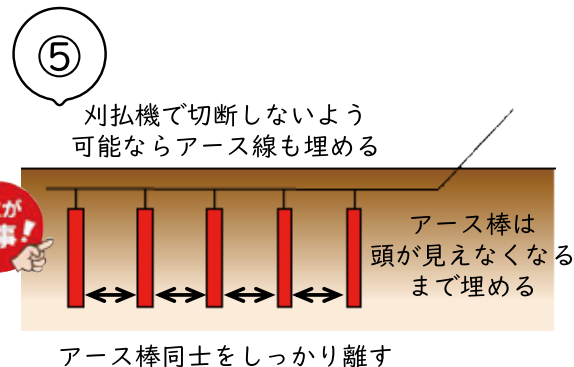


## 電気柵は「心理柵」 電圧と高さを保つ！

電気柵は、電気の痛みにより、電気柵が「怖いもの」だと思わせることで侵入を防ぐものです。電気がしっかり野生鳥獣の体に伝わるようにすることや、慣れを防ぐことが、その効果を引き出す秘訣です。

チェック

- |                 |   |                          |
|-----------------|---|--------------------------|
| ①               | 舗装道路から50cm以上離す                          | <input type="checkbox"/> |
|                 | 舗装道は通電性×。獣が柵線に触れた時に、獣の足が地面に触れるようにしましょう。 |                          |
| ②               | 支柱の間隔は4m以下                              | <input type="checkbox"/> |
|                 | 柵線をピンと張るための間隔です。専用の漏電しない材質の支柱を使いましょう。   |                          |
| ③               | ガイシ（碍子）は外（獣）側                           | <input type="checkbox"/> |
|                 | ガイシに触れることでも電気が流れます。                     |                          |
| <b>ここが大事!</b> ④ | 柵線の間隔は20cm厳守！起伏には支柱を追加して20cmキープ         | <input type="checkbox"/> |
|                 | 起伏がある所で、地面との隙間が20cm以上になる場合は支柱を追加しましょう。  |                          |
| <b>ここが大事!</b> ⑤ | アース棒は湿り気のある場所に離してしっかり埋める                | <input type="checkbox"/> |
|                 | 獣に「痛い」と思わせる電圧（4,000ボルト以上）を保つには湿り気が重要です。 |                          |



対象鳥獣にあわせた高さ※に印をつけた棒などをあらかじめ準備し、チェックしながら設置するとよいでしょう。

※イノシシ：20cm・40cmの2段  
シカ：20cm・40cm・60cm・90cm・130cmの5段など